KODAK Color Control Patches © The Tiffen Company, 2000
Kodak LICENSED PRODUCT
Centimetres
Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

門 遠13
號 658
卷 2

美分多八媼

第一

同録

折掃して十人ばかり人姫面を彩る物好
者付と二親と和ぐの姫形容
賞れと思いる他の浮い親又ゲ弥働さ
七十の於へにて新の温純若衰切慣金を歌

二の巻

明治三十六年
九月十一日

才二　只牙を幸用よ今とこの極こまいの法新人

一門の新し日ぞ別れ来るは結乃法合
月を花の新に帽子を待て婚礼の祝宴
若の豆に実のない殻手をとる亭主屋

才三　焼鉄の周に紙ようくも作まれ界の郭俗

ちらばと只牙いあつぐ格乃月のと帝
情い涼い海の屋沉めにうける屋亭相
亭し亭亭し白髪の新に亭出さ決待の人

一　打抜て十人並ふ人婚面に移る抱ね

夫人の世にある。百年三万六千日の月日光陰。奔流下流の
ものの如し。内に法華の宿を新しい。ものに人に今昔を接まで。
一家一門の不幸を嘆をしたとけと。家を責つしてあむ
仏寺をすぐ。せるれ茶碗と。ものく。亭主亭主と奉へど。貪
欲の深さものい。一旦栄西とらつぶ。滅亡すつ行迫し。
昔日毋任関ークを知れる。ゆ人の深れ大百姓。ふ外を
夫といろい。之来新い毋性の朔金れ老ーて。的金こ夫
とて。ふの代表のふ者めしゲ。一は立身しせどしお墨く
ほ。面ふ人ふれ由ふ漆く入算ーて。的人金のふれいとて。極
夫とをのばふ名ふてよびわ。ぜい書きさく。今昔を

溺る事のみにふけり。すゞろの儀は行をしらで。下作の本旨
なきもの。ずまぬ時は繻巻をめきとあけ。獅猿ともにうきみ一銭
もうけ嬉せをむさくれそ。今始なまると云ど實。田畑大穀を求め。母波
田舎村の元〆と都へ。のぞみさ及ばぬ金をもうけて。牛るい馬鞍めつ
ひの男女六十人余のくらし。家内ひろく義は大夫義なるく。六門外の一
様下にての世界とあかくれし。女子計の人村才三十あまりの娘にはおさんとらす。
兎角にし家そて女房の埒と息子縁算にふれて妻合せ給ふ困のうちは三をけ
ともいあれ代々の家督計でありく。続一家来一粒。紹算娘のまゝにいたせぞ。
家の隠居から島の男ねおりや。まで其家の様子をよりて、いろ〳〵を菩
をそ石つかりいはをさうや。倦うひの男女をさうて、倹約ふと常の世
伝とやさき親の目なくても紅塩のにかけいおげとる事まで、珠ねより千両
堅の粒をぞつけまで只ねくしい身員にいれおすく打へれぬ。女房は真が弁

本来は都にて情ふかく、外の人は偽りなく、出入の者までに行やさしく。京
が賑ふ時は吉原にも劣らず。されば男の女房になさけ、かぶ髪を結で
おとけ節く。田舎の男には背をおかまず。而がらで働きもなく。元来家の娘
にて幼少の時より座敷に出て男女の風義をならひて。田舎に京女を増
つまし。並の時は衣をそて目を付、我の容儀。今十六か二十あまりにて古くありき
ふとおぼゆるさゝきを出すれつき。一勝よ余人の娘。男子ともちがひ娘の
子は母の育にて成人しては他人の子に渡とものなれば。縁によりて
いろ〳〵なよしなる嫁入して行まずきものにて也。さすがは土ぶりの娘とて
女の藝をふつうなるをぞ。そうと笑はれては母の親の恥辱と存
紅娘は嫁市にはするものまでしおお抱師を頼よりやかて縫物とする也。
手道には経をつませ。母は絹を織せ。つゞれひそかに京女の折りひとう
りて花車にぞてそて、十四の年一両の給料にて立たる方へよみと世に

又年そひて末子とられみな家と此子を兄に外大事の代々継まつらんと
いふも叶はせで。今年二十に成けれどもその男子を相よからそで。
まの家をお続せんと一筋に思ひこみ。人のうかがひねがひは髪切てくれに
白粉絶て紅花の唇色さへかわりゆく医の気魂常も細さとしてすいげん
身とかくに我子着綿くらず。男はすべて十番好き禅同と見へ男増に
世帯をおさめて我子の成長を待ちるなれど。かくさは我よへ御かさき
如此ぞかし。二番めはおつぎとて此もの年より我の小児医者に付けた
一家のそれは医者と云の娘。今は思うとて元家の後おれ。宮仕によし。
姉よろさる上臈の御ことあそぶとみんなはせけるに我子の袋ひらがるさ十種
香ぞは琴と弾すひとるとみんなまへにさせて読うるとおかしく。
またそのつる袖くひ。花の手向かの雪に夕月右筆は身もそもかも世の
せうきるまをとちて。夜は女侍衆部屋よあつまりて男うはさのさま世

物にふてきめくてが棄かなき我恋のすりはれ身体に無もなり乃
縁付。親分の医者をきては疾を待びけるうちの年を尾よく娘
おく母様の親のうへ御出を。遠縁の隠者の大門屋内端なるかず
山外たまが肉縁は一倍の身に侍り。ねよても思ひる舞者らさ太まも
気をさりて嫁入ると不足をいらしてつらぬ望門屋の女房には
似合ぬ。かかの折から式日拝ひ月よへ。下駄毎朝の市ます出る。母様錦
とえてはおぼよとかのやうにぱし沖火もれゆすしはくらい候。糠味噌
さも酒蔵と地下にてやひするのそしりつくひ木で耳にさら。麦搗
仕より嬢どもが気よらつて。ここ二番めはおさんとて兄の中にくい
器量すぐれど。色わくて手く骨太に。肥て親父の形容に似て天
性まく正月小袖も着てからかぬ尽て袖を見はされ常住
お金よたをきくけ着て提げて下女と同じ中にくし半のとおずひ。

ある家倒れて妻とてもなく男ありて男女のめしつかひを追まはしかりける女の
縁をつげてあはせ下くだんのことなれば兆を追てまゐりぬ大分の祝の
気たえけるが外の娘を見るに同じとせおとと山林寺まで出しおさんまは
からきめもみせず死して百姓の家をおつけける娘にて前のことて老の
こころをそむけて妻合せぬ家の根継と細にかけてのちに養子の娘おやるれ。
天性まかせ縁つての娘女房嫁ありても静かに風俗自然とさかえしてめでたい
娘つゆほども前髪もなくれをさせてねざおふろ少くなるほどのよき婿
面つき空のよい紙帳の二枚屏風の鼻をもんじてゆんの浴衣えらみと見
とりけ。薬箱などの文がくなどとまかせておしみをするに。三筋町のけい
その娘すずろを見て。風俗をそれはまぜてつのるばかりに家業山林の名
中にもしで。四ぜん見ておつとはかまで少きつ袖ばらけて。人の目にさる
風俗さまの一出で来れんがあるじて縁のまくらいひやる。年も十八の秋の風

ふく秋を迎へて婚入をなし早々とて謝しまして山林家業女まじはりぞ宮つき方
とこの合せ縁はじめてあはせしとき早々ひまびかそて娘ふりをうしっ。一生男といふ名おち
ふりやとひとさせば。親は出家の心ざしとて。母おや一人かあそび女の尼
にならで。まっさ先に世にとりさるは。親の子をそひさかりてあそびてされ
ばこそ。縁ながおかるさ、仏の道ぞ縁よつけて敦煌せられば。ます世
くまやかをうつ付て今めける物のみよ入び一筋をも大功よする縁を示し。
仏の因果は尼よめのでござるぞはくぐせるの相手をうくるは男は
女やさる女房のかれは妾おかけを無すべきものには女わらひて。心の
ままにその身まるは女は一生その男の黒髪子をきもやみれ恋もなく。
親のさづけし男ひとりを一生添まもり。其男とたりてれはよるもうすぬねに。
孫子おもる相夫男とねぬそは一生しま男もあやしきて男すは染を
は深くそれを見よらて今ぞうれべたる人の心動面するするとも嫁なそれ

いつさろそと宋一国今の信濃ろ
きろ命のよい長男とそぐろ
事ニ京ものしあるものいと
ひて臭わけ中ゆとを
ぐ入めしもそ方ぐんまうせと
長わ京ものまるぬかろいぬ
和事ひけろく廿二衣しいのひ
ものすろ僧ぐ背中ひ負ぐ
ぐんて労結ろ秋ろぐ内
をぎぐんろわそぐとしてて
そぐろといろ中わろいぬろけも
さろそとくい二枚のわやまろそ

ぬて二まそそわものぐひ姫宗市ろ清夏ろをぬかて。俗ぐ
京ろろ祈りてろわどろ中。ぬ京の清なる今ぬ法ぬいろぐ
のひすこた。ぬ京の清われよせて。ふひろぐさみろ人ろこ
ひろろ肌わぎて猫の下れろるぬずとあり。ぬ事ぬ
事いひりけもぐ。ぬ和ぬすぐとろぐて。京清ろて法酒とりけぬ
者ところ。ぬすぐ行て狩い夜ひ。ぬ人ろ猫ぬ結び
ふ。ぬ信わりなろも名ぐ。ぬ女の人物奥ぬ。ぬ京中ぬろこて
ア名。ぬ京枚ぬ京ぬ。ぬ京の色ろ中ぬろれて。ぬ京ぬて姫ぬろひ
なぐろ人ろりぬ。ぬろりぬ。ぬろ二枚の名ぬ
わひ。ぬ幼ぬろ二枚の数のまろ。ぬ京ゆ人ぐ巳。ぬ今年ハ人ぬ廿七
ぬて人ぬ世ぬ古夏稀ぬよりひのかぬいすひ。ぬ人の姫ぬとけぐろ。
一門一家ぬとひわろぬ。ぬろれ。ぬ房ハ人ぬとぬいひみぬ

弁長まことすぐれてづでいたぶ修さもんとぞおもふ聖分ちの和尚
ぜんぜんずらみやをおがんをあげまもんぞ。ぶけあくされぞろ同公
いぞうりてきつぐ。教化して利益さもてさんとぞうのをと解脱
も同法ちめて法一門ちれし中ていひ出とぞ。ぶ修して行弁
ちう。無房ぐおもひつさんぞう

(二) 以弟を辛き同小今をと弁長まいく法親の人

教さい人ぐ口千れ内ぶとうねつぐ法修して楽法拾とすうるものつ
ちゆりぬ。ぶ法まちわーとて。今さんあれいぶ石屋のあまとちれよハ
うねつぐ。月面にうち法拾の義ぶまも。れをとーうるものーぶ世の
ひつーきちーよあらが徳ぶのようりめべーぶづし万豊同おちいべて。
おにちを身をつひ高ひ神ぶ利をいんて。ぶ屋の海と風法と
ちのぐぶ入れ風ちー末の愛易ーて。月天ーを言ていちんと考ーて。

よりひーちちぶ今のちけぶ坊世をちれて世を深ちり人一せいいを愛の世を
ちうぐ。ぶのう豊あじぶ。弁長まも。今法の海ちちぐぶひ。れく法親ちく
我月七十れめーるを言ていぶ。ぶくれ法世れ月をつひ。世を言ていろ行
の月にめてし。ぶ法の法徒ひちう房ふうけて紙をうげ。罪をちぐ
ちて世く出て。ぶ来を迫まりぶぶんさせどにせちつひ。或何いちぐ
教へ紀て。ぶのはをひちひあつちてゆりて教てのぐーぶを菜ちな
みてやを考てぶ法にて拾ぐ。ちるれいべ無房拾算一門ぐちちて。法
行をすちてしぶるちうんぶれ新を実ちるぐぶちれ世ハ
を。ぶ別めるをいい出て。ぶ法拾せちくいぶ。ぶけちう法ぶのわさ
まをを法ちぐてんちぶ今ぐ。ぶ法行て世ちをやていぶちの行ぐ
ひを。ちるれ。ぶ今ぶのを人の言を上ハぶちいを世ちを一代覚
とりぶちうひあて。ちるよハぶのぶーじやをちうをぶちのの

里てとうふ作り度申あしらいむすめ申候
稲の外ゝ作て為の肥土のつくりとくしいのゝ工夫して去年ひ
そくに茅稲と苅ちして右之通りに
い苅てさいこうしいぶ申さ新田ゝ作て十年い去年貢米と切
かしてゆくゝやとの新田そてつけ抱ゆる子分のぬきとゝ少屋
いてゆるひそうゝ細紙とつくひ申て作せるべ毎年植とする
るの稲しいて作りしぶ方乳おとりて十年ゝ内ゝ成熟とゝ
四いいるの望一番わすゝ申ずゝ去上人法師とゝ世話ただ
まていゝ住ゝ作りそうゝ法級してくるゝ申ゝ内ゝ入ても
九七合ゝ内ゝ田ゝ新の不一新申ずんとゝ申ゝ内ゝ作米
ゝりと十石ひきゝ内ゝ行ゝ内ゝ作ゝ内ゝ入て法師とゝ内ゝ一信ゝ
けゝ申ゝ内ゝ内ゝ内ゝ内ゝ世話とゝ内ゝ作ゝ内ゝ米新

の切出の必法とゝ申ゝ内ゝ田畑とゝ内ゝ作ゝ内ゝ肥汁とゝ内ゝ作ゝ内ゝ
内ゝの米新ゝ内ゝ稲ゝ内ゝとゝ内ゝ作ゝ内ゝ稲ゝ内ゝ作ゝ内ゝ
蝶の粉ゝ内ゝ作ゝ内ゝ稲ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ
せゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ
待ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ
作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ
用ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ
ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ
ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ
ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ
ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ
ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ
ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ
ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ
ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ
ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ
ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ
ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ
ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ
ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ
ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ
ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ
ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ
ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ
ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ
ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ
ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ
ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ
ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ
ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ
ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ
ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ
ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ
ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ
ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ
ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ
ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ
ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ
ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ
ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ
ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ
ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ
ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ
ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ
ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ
ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ
ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ
ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ
ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ
ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ
ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ
ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ
ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ
ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ
ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ
ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ
ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ
ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ作ゝ内ゝ

はて脱まうしてよびおせいぷさうやはるの人くいぷろう紙紙があつざつ
ぼうぐいどろぐうわいるひいたがひのまれといまぐおしちうあるいぷ母植
行といいうと。猫ぐうまれうあるあいうびえ浴をけまてけおいはくや
いうやぷまたりいおいたまえがりくあつけれ婦い涙出て垢をとらそ。
桶ひいやとあてうひ才料まえいぷ。ひて柴とり仏。猫て楊さ浸し。
わ浸うくいうとさせてひぐつくえ表つくゆつかくいうえ見
絡るあ住るぐせやぷ垢汲ちべひ出ちうつあ。ぷるしめされはえ
才の人くぷ。ぷて泣てのくおいすると。釈のくみのさういく場か。彩えさおさん。
らうもいぐえるのくぷ才といてたまがおいつきあせぷくみたまが行郎
ちうとぷのれくもいるよいそぐえあつとらえてくれたひおいたちいつ
きれてうせるあいぷるくいぷ方えれのるまれてもよぷぐりつひいおお
らくえぐいない釈いる教して面とえ足ちうぷさそくい仕換ようそ。

わわくいぷまあわくえぷうおるぐまれと流流さもえぐいるいゆうう
ぐりでするい化人ぷ住えぐさもてんぐおくいるて面ぐうつうくあよ
きくてくけぷおさんぐあくぷあいひ付さ色うぷおひめい毎日垢をえ
えのぐ汲でうもい才わい見毎い栄と古えのうりてうもえぷおさん骨
ありきたけくきそくずい片長にめわどたきめされぷえ才る
ぐ一はと拾要ぐよ笑切こゆうぐらるれぐくきれ教くてもいるう
るいぷむ眼とひさ出て阿るとぷ。想れ始おうれ教ふぐうそ。
えれいれうふそぐらたるえさうるぷえうくあくけるいめるいぷさ
りくてゆうぐるえ人の情ぐや倩栄また仕洲るるいひくくそくそ。
釈えあるいめくてぷおさんそくそこのるさけよ男れきそくそうや表
ぷのるいりのいれもわくくみてくけゆおるのお伝表いもあうあぐ。
いうくそくれてよがるいぷてぷのわられとくれまんど。栄仕人くひう

あいぢゃーはくしゃくとあるもんのようだ。ゑくぼが可愛ゆうて涙くんでもまいるわ。なぜそれにむとでいるといいんとつうて世話ゆうて。そこ男のいとすげくるあだやこと者ともと主はよるまゆて。今年で九六年になるまでこのあいだはるとうさこの悦命邪人なんるうだやーおうわと婦ぶいうえとついそれに美人をれぶ。あり下に抑さまりい大分に干菜と新平いうけて。ゑ悪ふうこの婦れいに仕れのまりうがあるゆして居るいるまくるれさせられ。女房ざうにはるれるとそ。さびいやとうつゆうるのるいい男の婦の荷つけゆうぶ下ゆひゆでござるゆさいまくちいそのわくにくつてけまに美人とゆ。今れとよれのつしはの色はゆ婦と出来六婦の教とちがわゆうに情と出ゆとれ。ゆるとは作ってうきとうずい。大年でもわくうるどてり新にてのけ。さゆうとうとうどうゆんとすると二年あの婦おつぎいさすぐ出ゆぐにえげでくてゆりるゆさーき

むぐせおさんが神とひくゑ悪れ和尚のお寺に勿とつて人のつくさでたらはくうのうはおまゆとちずやとは伝ぐゆうびいはぐうつそ人のつくさとたれといつ世のたくはとりてのゆちぐやげるおりぐるとはぐにこ信てもいゆりおくうの土とれはせて仕つはくゑ島とうるゆーこのこいちひあげ。分い逃ぐれ柴苅とさせつげのおぐはさでずて伝ぐ。塩ぐ屋ゆてみ和の七和のちくとくあるとゆ。ちくはくうとゆ。ちくはくうとゆ。ちくはけ仕くさそ。がいやうくるゑとれそ。ゆうとうけてゆ。仕よ。作くゆ人のみるうずくいいくねうとゆ。大和行まぐ。ゆい新洲とれいぐ。ゆ和めのおくうい作ゆら八ゆくゆ。ろゆいて和ゆて元ゆ。おゴレ。おさんゑ。ろくぐ乃美。ろゆゑとれ。ゆ拝ずるゆ。いむごい仕ゆでござんとゆわくぐ年のくくゆすく神みりの代ろくゆ。仕ゆるくて。ゆくぐ。ろくれゆ。くくとは。ゆもちまゆくゆまぐぶ神ゑ家人ゆでくゆくゆくとする仕ゆくと紀ゆゑゆ。くく

うんじゅう
とうとうれ
うそうあてあけさま

つてぴつくりぎさせすぐ家もせん氣くぬてぷうんがでるのでござん
と。法こ氣ものつとあのもてござんとうぷいのもあよしたしのゆに太拍
みてつらいちんせ。欲ちね光さくてぷりてがこもくゆにるされさるでい。
わよのもこ氣ぴふるまいてとちてもついちつろ仏にめものでござる。
人どつふも。若とつくこ世の風俗。ちふぎやしまい西者の世話。話まるみち
の話ちくこゆしにぷせらぐんよせもくいい新てちゆにちゆね拍でござ
ろこぷけいせいの形者がくろるこのるにるぞくてなぐしれぷ者めのお
とちすこ者でおのれこらのナく新色ほさりにいこちゆ新洲とつぐ。
みてはるいけほ。役よ言とふぎりしゆぐゆにちておかるぐにちろ
くんとちされこぷまこのわざれすらぐもいゆくぷこもちず左拍のこも
ちぐはめてぷかよろゆきが出ちゆぷ今のきりいんとほちさるてぷの
ないは出ちてとちてぷおれとけちゆにされてゆこちゆれとねのんとそのるこみ

よちて他々仏ぷ。家こおさんていうみく実今どゆくちぐこのゆつちれば
大拍のお拍ちていゆほぷ。今ちゆほ面の小屋へ追さ後
を拍ちてそでこちろと年これちこせちれい兼ちとつてそちぐこ
ぐく新つぷと聞ちて拍ぷ。山拍をまが者こいせちぐかく豆とおか
と鬼がちちとこれろ

㊂ 焼決の聞こちくこ者ぐ男の新伝

人男の豊新い紀る縄のだく。ぷてびい屋こ交い者ちる世のちひとい
いしぐぐぷこちつやス牙のくぐいぷきのちこいる様今屋のゆにかぐづん。
わまちこの侍人の粒ひとひぐろ神とつれてぷりし屋行ちこちひ
男ちるくぷいいろうりくぷぬゆこ者ゆれぐろゆれにも粒ち方
名れのこ拍ちまがりくめのつちれ安のの拍いちのでちよぐれ。新ちみい
つちれ者ちくちとちて。法ちと山まがりくぐ追ゆれ仕付ねちつぐ。粒

ある儒者がゆかりありて。慈悲あるものハくつてきたり
き。おまつさんがよわれて。老人の人ハ小屋に居ける。又弟一両ま
近世おもてむきな談ておもし家月のやうに見せども。獅子の仕ぐさ。又弟おお
付合げさうやうもかハらず。おんじの海をおさへ。母れとうかゞうハ。叔父太江
ちつとも私無法なる心を合せ。我押領せんなれバ。叔父の妾腹の子を
そだてて此の人ハ取すてつて。母れへ斜面させ。家の跡をさせんすると月ふ。
大和田要人といふ人ハ山伝へ出仕を事を。あしく親類をいけどもこれ流ち
先へけ続都て要人の親類ひいけしなう付て此人へやりと。まね切ねけ
様行せらく座敷へけ付。母子とえりつかに怪我のそれハ悔てうろうとく。
くくりつかて母れよりれてつれしつのさ越後をうつ浦と又
あれそ人実よ向りさりしふいねうさきやよわがさつ楊つておわたた
するた出合。又弟のかのりをとてつ。斜面やをと。叔も方いさめ

志をまゐひへびらか越後ばかりハさ浦よりて来わけぞ。じろりけときて居ま
ちくべきとりて今てに指子ハさぞさらがへ。対主様とそであるにじ
ハ流ちか叔父の仕付にりて近に来ると傾かとハて。母を乞ひつ。
けつかと主ねまの世上座敷へ行かりけて居りて家来仙右衛門
ある事をはておまりけいてうつるくひへ。まかれ居るあけにむつかしけそ去へていひけと涙
さくやきて大隈川へ主ねがるかにむつかしけそ去へていひけと涙
ある事をはておまりけいてうつるくひへ。まかれへのよ付とそもさ以全をた
はけするとゝこれけり親へけのかりなされ。おんじ出んどいひ名付ある。叔
はかねが方へ出ゆけせあひけ身をおくされ。時雨と待てうてきび
出合せおそびかせとやさしくても拾合せ。今子おく縁談にくれ我を落
ししては主ねより名をへて大隈川の座に寄どあはゆく所のあがくそ金
まつ世親の方へのかるそて人高人のかどハされ。迎ひよりずるけ間よ
かりて行けいとようよろずハ事にてさうつてし。ねくなるさうえ

のすへにも我くハ兄弟ひとつよろあへバせめてもそひつとられつゝなく
さむらひとても姉さん母おや極行いらづくられ候かさぞやおまへの
はゝをさそ出られ歎き給ひて三年にひとゝせいらびつゞきおもとそれど
涙のおそらおもハ兵部の手拍と小袖たに人数にとられゐるゐづく家
の破滅とハ其のゝ出ていひかうとみさかへど歎きあかゝ大事が
無類者お市といふ家従の身でひとつ悪びゆふまり窓より内を
さのぞきさかはゝ海ハ野ろんまおさんが面るにそ出身をそうする
とそハ今方ととわじ小屋へ追出さるよりおまりれいて隣しうちひ我を
兄弟四人男女六年三人の家来たいひ合せ親子ハ、それ屋がある身の
難儀のかゝとゆるしてとせくざされしと手付をもって詫びひなよく身を
をそせんと力はいへて辞でそされバ追付扱やうよびよ来り給ひし
うちって給そめよ今々身の給も哈ねよしさぞ意熱よあひと云懐

錦を出窓より内へ入れバ兄弟へひとへに六道の辻をそ地蔵菩薩に
わひまする気色もなくしのゆらとふできぬ機よそつぐ兄弟共悦び
涙よりさきのふかまりて、たがひにひろへハ我人男程びの身のかなしみ出しく、
うらびくれ涙の体とそ見せねゆられバ何事とおやぢ様もおさんがいそれらぬ
たんかぜあいくと立るすでのるかは也今にさびに来の色と詫んでゐる
まとひそなりや、ゆけバ外たまほ給ふの忠子舞年ゆるしなバおさん
もうまる本の次の一間に遁しけれバお市おつぎかゝりかゝゆて頭ト
が男女の家来五年三人枝の其度々一面よるすびめも貌免ゆるに
手とつき、わらべ伏をさげ候ゞ無情によゆるしてつかハされよと手を掃て
とひくれバ外たまほ様びひ手をとりてそとも方男子たの附るら
わ抱ぶ来云するゆへはバ行合此のものおとくあり。性根の
つくろど枷なされバ懐たりと下人たゞおそどひくなゝめそバ心中に

并存そしてゆうて世れらの難ひハせざりしにぞやつて兄弟にうぎりぞ
なごい弟にさへてひつさすうへいへれわんぱ由にもふ女主の老へどうふ丹に
早晩縁ありにうつまうれば沖当がめつつひうすり。さ入わがバ兄弟の権に
またかの元と六などぱつて兄よすくいひ又れバ由にそまつて幼少の躬
ども信ははやかうられてげ世悴やクうても。成人のは親く未だ娘が助
もぬやまんとぞ年よりれけ辛労さうてる。女主の老ハ程うず末なし続
むけ兄弟に涯の家内の奴らが流言でぞぬろが身分計にてへぴひそ又が置き
ゆよ。婦主を娘め咎人の婿と成とならし。難人を抱ふみ。一円よ願ハ今宵でも
様ほよ来かぬ秋桶か家よおろて仕置せハあちらん。足総図
踏象紙までずるひ。郷八賤よ一ちへつめ。老ようがわまりて。下く乃
世つらが色然う。か中の境受仕り。一両よ願ひと立つて了ぞとれ
ゑ上ぬて宥免しても世らうとぱ此ハ跡傍よぬてちようと相植

せいていぎぐバ家来たひうしにくまうぱゆうてか中の家の宥免せよとてぐく
孫がひと立てぱ其のまゝにもさせねやうにぬ彼ては程の大さぶ害よ
うんぱよろく他の家来ならばとさしゆれバおぬ家縁組ゆするぬ家よ
りみだと引ちとピコレぞく女へふまゝらが女ぎやとそ。翁ハでもおへるを
孫がらそとい。ニ連中にくゝうぎりぐお婦ら沢。一円よ孫がらふかぞうは
下く此老丈にたださゝあれとへ妹聟のあとして女でも切らとふ
まへた婦よ向ひ。吾等がちくする。ぞ存こうすぶ世るを知く情なもあるへ
さしバ年よるれさ親又れバおなひがく。翁のちがぶてさ弟婦扇を相ろ
あやらぞ持と呼やうふるつてゑひがおなさ御ひ。めつつひの老たを恵
むやれいんなさ仕どして親とおじさ家のおひをおまでおけさふとれ
おもつげなハ手鏡をひろうふけ緑でぞ。ゆうの和尚れのおうさゆうれバ。
嫁に若の家よいうすれ余慶あり。嫁不若の家よいぶまど金鉄

あるとて無道非道なり邪見なる者は。当分栄へても天のめぐみ
をうけて冥加ありて家さかへ。一旦滅亡するとおもへども。ぬけ出るれば
子孫まで天罰ありて。繁昌する事はなし。とかくにたゞ夫婦の日ごろの
邪見なる心を。善心にせよとおしゆる事は。無事なり。又親のひかりをも
今世よりも子孫へ。親ひとつの心にいれば。家ともに子孫へ又つづけさせる
よ。一旦は親の後ひと心の邪見が悪ようになりて子孫又身をかた
きこゝろみのほか後ひと得したいとは。ぞうぞうとすんずん。そうるものなりときゝ
おりまするとも。そのたまたまひ。それがおさんまとおのけ。何ぞかいふ大
婦がりて咲てもよいは。邪見なことにくやの中にあり。家の身が
心あるとはいうまけども。生き海や婦の者のよめをかぶら縁
生れつき。男たちの目つきは家内の中の者が皆持出と。そのまゝ人が
役めの所へゆくゆくもゆくゆくも。細微道を捨ておいて。演へ

持てきのよめに塩を汲で申らせて。かうきのよめは引越は一それ塩
をもらはせぬで楽をさせ。それが女房さやの。イヤうちが念仏ておる
のと。侍様同志のひきうひきうねとも。かうえ女どもめは才のきのぶ
よ。あぶりにはづ。小麦の粉挽させては。ひさせて是をとりてゆく
てすでとしおりて。ゆなえなれぬ。ゑざんさくぞの作がおがおきれ
せ。あらゝと粉挽をくい事をすれば。ひつけさ目をすそにえさんかう
かりおかうし。兄弟めが婦に何せそう。親類家内の中が浮気
にぬぞする作り。もられつねなど。二人の夫婦をすればをとつて離縁
いひ合せて。ほそのゑいうそ。ぞうとうるけれたる孫がひ。今は兄弟の
中らに目もかけぬ中に。おやぢれいはの子とるなさ仕ませと。ぬ
ふけるふぬてまく重ければ。よ計大まむろときつる年ていて云
後のふときさ炭中らるる。惣で百姓の所まではおりしろまる女は

はらひのけし。地ハ二つにわれバ。雲のごとくなし立て。すけうきさはがしくゆふぐれ
さみだれ修行者延慶入て。その後ハ六部の姿となりて。かのとひきこもり麦畠の麻の
中を出ておさまり。ぐらゐに作るにぞ。猫のまもりの入にてゐさいの程いつの
麦林にて通ひ候にて入とくに働きしかど。弟子ハ子孝子でかれいかなさんとす
年の始ゟも乗り越してぞ子につけるまで。いつもあるかいなは先迄にぼ手の
表未と途ではなとをして里へまゐりけるが。かくなる身は裸になりて。かゝはるのをか
此方にて追出されしか。はやはりかいしがなれバ。世の中に残りしかべのぐさんくすみる
いかさまなる娘の事なりとよ。姫なみの命さへ。やきやきとかへしいかにして。おす
ハ。内外の敵とて有るいかにも。さしもが命を助けて。悪性者に療治をさして根切
するをうしろとすてとはいへども。ひそかにそうじ。太皮ぐさなかにも。鉄棒
おくべきなどと腕まくりして。ゆうけれはいま邪見といへる。地獄の沙汰。
ときはじめけるいきほひなり

咲分五人娘二之巻終